

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 16

2013年4月発行

特集！ 2012 年度・下半期

## 企画展の歩み

まちあるきイベント  
旧大和川を歩く  
～ぶらり玉串川編～

好評連載中！コラム  
落穂拾い - 今東光の薫風 - (十)



# 展示のご案内

【通常展】

## 大和川付け替え関連展示

2013年  
5月3日(金)～6月30日(日)まで

通常展「大和川付け替え関連展示」では、大阪平野の変遷、大和川付け替えの歴史、そして八尾を含めた河内地域と旧植田家の出来事を、写真入りの年表で分かりやすく展示しています。あわせて植田家所蔵の資料も展示します。

※休館日：火曜日、5月8日(水)・9日(木)、6月10日(月)

同時展示 河内木綿資料  
旧植田家住宅に伝わる河内木綿資料を、5月開催の「河内木綿まつり」にあわせて展示します。

◇5月11日(土)・12日(日)  
河内木綿まつり  
(八尾市立歴史民俗資料館主催)

八尾市指定文化財  
安中新田会所跡旧植田家住宅

通常展

## 「大和川付け替え関連展示」

2013年5月3日(金)―6月30日(日) ※休館日はP 15をご覧ください

同時開催：5月11日(土)・12日(日)

「河内木綿まつり」(八尾市立歴史民俗資料館主催)

## ◇土蔵1(常設展示)リニューアル!

2013年4月1日より、土蔵1(常設展)の展示品をリニューアルしました。

植田家で実際に使用されてきた大正～昭和時代の道具類がたくさん展示してあります。

どうぞ、昔のあの時代を思い出してみてください。

※旧植田家住宅へのアクセスはP 15に掲載

## Contents

- 4 特集！ 2012 年度・下半期  
企画展の歩み
- 6 連続講座 2012 - 第 3 期 -  
土蔵でくらしっく!?
- 7 こどものためのお茶会
- 8 まちあるきイベント  
旧大和川を歩く ～ぶらり玉串川編～
- 10 研究の一と：ファイル4 「青磁の便器」
- 11 出前授業と見学 2012
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記⑩
- 13 植松のまち・ひと 一第 10 回
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

### 「旧植田家住宅・青磁の便器」

およそ 250 年の歴史を持つ安中新田会所跡 旧植田家住宅は、これまでに幾度かの増改築が行なわれています。写真の便器は、昭和初期の増築の際に設置されたとされる青磁の便器です。この便器については、本誌 10 頁の「研究の一と」をご覧ください。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



特集！ 2012年度・下半期

# 企画展の歩み



旧植田家住宅に併設された展示室では、年に数回、企画展が開催される。企画展の内容は、日用品から優品までバラエティに富んだ植田家の収蔵品を展示することを目的に、その回毎に様々である。

二〇一二年度の上半期では、植田家にかされた書画類から、幕末に活躍した人物たちと植田家との交流を探る「書画に見る植田家の幕末・明治維新」展（七月五日～九月二日）が開催された。また、企画展ではこれまでに、漆器や金属器、装飾品などの工芸品を取り上げたものや、昔のくらしを伝える道具を展示する「昔のくらし」展、あるいは美術品の展示として「植田家と大坂画壇」がシリーズで行なわれた。

二〇一二年度の下半期では、新たに「植田家コレクション」として「大津絵」を取り上げ、また「昔のくらし」では昭和の道具を中心に「ちよっと昔のくらし」展が開催された。加えて、これまで企画展として取り上げなかった「河内木綿」の展示も行ない、植田家の収蔵品の幅の広さと歴史の奥深さを改めて感じるものとなった。ここでは、その二〇一二年度・下半期に開催された三つの企画展の概要をお伝えする。

## 「植田家コレクション」〜大津絵〜

大津絵は、江戸時代の近江国追分・大谷周辺（現滋賀県大津市）発祥の仏画で、やがて東海道の土産物（旅の護符）として人気を博した民画（民衆絵画）である。見る人の心をひきつけるユーモラスなキャラクターが特徴で、図には道歌が添えられ、教育的・風刺的な意味をもつものがある。

植田家には、江戸時代後期のものと思われる「大津絵」が「まとまった形」でこの状態であるはずの大津絵が、なぜ植田家では一冊の本のような形で保存されていたのかについて言及し、大津絵がもつユニークなキャラクターとそこに込められた風刺やメッセージの解説とともに全三十三点の大津絵を一堂に展示した。また、「大津絵」を初めて見る人にも楽しめるように「植田家の大津絵三種」を決める人気投票も行ない、来館者はじっくりと絵を觀賞した。（投票結果は植田家ブログにて掲載）



## 「道具からみる ちよっとむかしの暮らし」

私たちのくらしを支える様々な道具。道具は時代とともに変化していく。例えば、私たちに身近な炊飯器をみても、かまどでの炊飯からガス、電気へと変わってきた。こうした道具の変遷をみると、そこには社会の変化も同時に見ることができる。

植田家には多くの生活道具がのこされている。本企画展では、その中から「ちよっと昔（大正〜昭和）」の道具を展示し、その道具が使われていた当時のくらしや移り変わりについて考えた。

道具は大きく衣・食・住に分け、当時の生活の様子が分かる写真も併せて展示した。衣のコーナーでは「洗い張り」の道具、食では箱膳をはじめ各種調理器具や弁当箱等、住では昔のあかりと暖房器具を中心に展示。少し前まで、ごく当たり前に使われていた日用品も、展示を通すことで、昔を知るための貴重な資料となった。

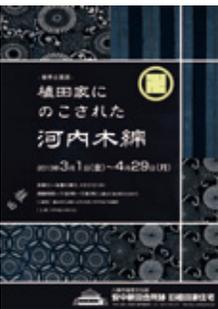


## 「植田家のにこされた河内木綿」

江戸時代の半ば、宝永元年（一七〇四）の大和川の付け替え後の新田開発によって、河内地域での木綿栽培は発展を遂げた。厚手で丈夫な河内木綿はブランド化し、大坂を通じて全国に出荷されていった。

明治に入ると製糸に機械が導入され、機械生産に向かない河内木綿は輸入木綿に押し始められる。さらに木綿の輸入関税撤廃が河内木綿の衰退に追打ちをかけた。

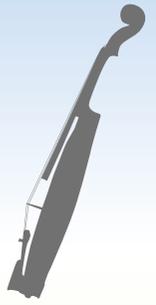
旧植田家住宅には、植田家の人びとが使用した木綿製品が数多くのこされている。家紋入りの油単や風呂敷など、日用品というよりも特別な日に使われたものがほとんどである。また、明治三五年（一八九一）、龍華村村会議員を務めていた植田一郎が、木綿の輸入関税撤廃に反対し、当時の衆議院議長・星亨宛に提出した陳情書ものこされており、本企画展では河内木綿の栄えた時代から衰退までの様子が、こうした資料を通して想像できる展示となった。





連続講座2012 第3期(2013.1~3)

# 土蔵でくらしっく!?



第1回	平成25年1月12日(土)
第2回	// 2月9日(土)
第3回	// 3月2日(土)



## 「土蔵どくろしっく!」

二〇一二年度の最後を締めくくる連続講座では、音楽の話題を中心に、植田家の学芸に関する収蔵品や、西洋音楽の歴史、私たちの身近にあるクラシックについての講座を行った。本講座のタイトルにもなっている「くらしっく」という言葉は、本講座で使用した用語で、「くらし(生活)」と「クラシック(古典や伝統)」が結びついたものを呼ぶのに用いた。また、開催場所である土蔵(くら)との掛詞にもなっている。

## 其の一 植田家のくらしっく

連続講座の第一回目は、当館学芸員が植田家の収蔵品の中から謡本・楽器・衣装など邦楽関連の資料や、蓄音機とレコード(全四十二枚)を紹介し、植田家の学芸から趣味までを解説した。冒頭では、一般に西洋のクラシック音楽として使用される「クラシック」という言葉の定義にもふれ、それが単に古典を指す場合や伝統や格式を持つものに使用されることを説明。後半には、レコードの音源を聴き、昭和初期の「くらしっく」に浸った。



## 其の二 西洋のくらしっく

第二回は、クラシック音楽入門編として、元大阪フィルハーモニー交響楽団チェリストの安藤信行さんを講師に迎え、クラシック音楽の歴史を、音楽と映像とユーモアを交えてお話しして頂いた。当時の生活と結びついた古代ギリシャのピタゴラス音律からクラシック音楽の形成に至るまでの話に、参加者は興味津々の様子だった。

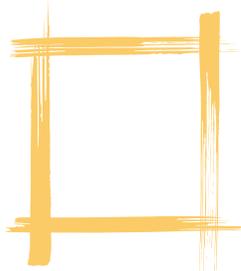


## 其の三 古今東西のくらしっく

最終回は、同じく安藤信行さんに、日常生活に潜むクラシック音楽についてお話しして頂いた。普段よく耳にする結婚式や卒業式、学校、テレビ、CM、映画などに使われているクラシック音楽を見つけ出し、詳細に解説。音源を参加者に聞いてもらい「何の曲(どこで耳にする)かを当ててもらったり、曲や作曲家にまつわる意外なエピソードも聞くことができ、「くらしっく」の楽しさを深く知ることができた講座だった。



最終回は、同じく安藤信行さんに、日常生活に潜むクラシック音楽についてお話しして頂いた。普段よく耳にする結婚式や卒業式、学校、テレビ、CM、映画などに使われているクラシック音楽を見つけ出し、詳細に解説。音源を参加者に聞いてもらい「何の曲(どこで耳にする)かを当ててもらったり、曲や作曲家にまつわる意外なエピソードも聞くことができ、「くらしっく」の楽しさを深く知ることができた講座だった。



# お茶会

こどもたちの



2013年1月21日(日) 旧植田家住宅・茶室

## お茶会、リベンジ?!

去年一月、初の「こどものためのお茶会」は、インフルエンザ大流行により、欠席者が続出！なんと二五名のキャンセルが出ました。

今年はそのリベンジのため、再度、同じ時期に企画したものの、当日を迎えるまでハラハラドキドキでした。指導して下さる先生方も、前日から荷物を運び込み、打合せも準備も万端で本番を迎えました。

## 楽しいお茶会

幸いなことに今回はキャンセルも少なく、元気な子どもたちの姿にひと安心。お茶席に案内されるまでの間、座敷では「豆移し」をしました。小さなお皿に入れられた大豆をひと粒づつお箸で別のお皿に移すゲームですが、スタートの合図で押されるストッパーウオッチに、少しでも早く！と焦って上手くつかめない子や、周りには気にせずひたすらマイペースで移す子などいろいろです。

そんな子どもたちもお茶席ではちよつぱり緊張。お茶を点てる先生の手元を真剣にみつめ、運ばれて来たお茶を頂く仕草も、隣の子の様子を見ていて、上手に頂いていました。

大きい子どもたちは、自分たちでお茶を点てる体験もさせてもらいます。

地元の小学校で行なっている「いきいき教室」でも指導されている先生方なので、顔見知りの子たちもいて、お茶のおかわりをねだる男の子に「アンタもう三服目やろ。いつもそうなんやから：今日はもうおしまいにしなさい。」と対応され、一緒に参加していた大人の人たちから笑い声が上がりました。終始心地よい緊張感と和やかなムードに包まれ、楽しいお茶会でした。

(旧植田家住宅スタッフ 澤田知英子)



「豆移し」に夢中のこどもたち



ちよつぱり緊張しながらお茶をいただきます



④小学校前の用水取り口樋



⑤⑪⑬旧大和川の堤跡

旧大和川沿いの道には堤跡とみられる段差や坂が多くこのる。

写真左：⑤西側堤跡の段差

写真右：⑪東側堤跡の坂



⑥都留美島神社

延喜式内社（927年に成立した『延喜式』に載っている神社。祭神は不明。水に関する神と伝える。付け替え以前の大和川が天井川であった地形がよくわかる。



⑦船板塀

木船の船体に使われていた板を、外壁として再利用している。

⑧都塚旧村（地図参照）

新田開発の前から存在した集落。付け替えによって洪水から守られるようになった。



⑨昭和初期の木造の診療所  
昭和の初めに造られた診療所。屋根・壁に銅版が使用され、入り口は人力車が進入できるように広く開放できている。診察室天井には美しいレリーフが施されており、周辺にはニセアカシヤの大木や果樹が植わっている。  
（※建物の内部は、現在公開されていません）



⑩大塚

堤の跡のようだが…、何であるのかは不明。かつては西方に弁天塚など10塚があり、都塚の地名の由来になったという。



⑫柏村稻荷神社・柏村新田会所跡

柏村新田は、志紀郡太田村の庄屋・柏原仁兵衛芳次が独力で開発。柏原の「柏」を取って村の名前にした。柏村稻荷神社は、太田村柏原家の庭に祀られていたものを現地に移している。



⑬六ヶ地藏

凝灰石の石棺の蓋を利用した石棺仏で、かなり風化しており、顔形も時代も不明。



1月19日（土）に、旧大和川を歩く「ぶらり玉串川編」を行いました。このまちあるきでは、旧大和川流域を歩き、300年前の風景の様子を少し感じながら、周辺の今のまちの見所を訪ねます。これまでは長瀬川（旧久宝寺川）流域を歩いてきましたが、今回は玉串川流域を歩きました。

JR志紀駅前の旧大和川を歌にした万葉歌碑をはじめ、了意川（現平野川流域）での付け替えによる渇水から人々を救ったとされる西村市郎右衛門の碑や、長瀬川と玉串川の分水地点である二俣を見て、ここから玉串川に沿って歩き始めました。少し行くと今回の最大の見所で、付け替え前の川の様子をうかがえる場所があります。天井川だった土地形状がそのまま残り、田畑の中に一段高くなった付け替え前の川幅約200m～250mの雄大な川を想像できる風景が広がっています。他にも都留美島神社や船板塀、昭和初期の木造の診療所や柏村新田の神社や会所跡など14ヶ所の見所を訪ねて歩きました。

次回は、「平野川を歩く」を5月19日（日）に予定しています。（NPO法人HICALI 北村茂章）

# まちあるきイベント 旧大和川を歩く

## ～ぶらり玉串川編～

宝永元年（1704）の大和川付け替えによって新田開発された旧川筋の周辺を辿るまちあるきイベント。今回は二俣・柏村新田が開発された玉串川沿いの史跡や名勝をコースとともにご紹介します。



### ①万葉歌碑

八尾唯一の万葉集に詠われた場所。「真鉾持 弓削河原之 埋木之 不可顕 事爾不有君」（弓削の河原の埋もれ木のように現れず（表面化しない）に済むことではないのだけれど、現れないでほしい）。この付近は旧大和川の河川敷にあたり、弓削の河原と呼ばれたところである。二俣から分かれた長瀬川（久宝寺川）の河原だったのだろう。

### ②西村市郎右衛門の碑

大和川の付け替え後、了意川（平野川）の水源を失い水不足になった志紀郡の村々を救った伝説の人物・西村市郎右衛門を偲んで建てられた石碑。



### ③二俣・二俣新田

かつて旧大和川が長瀬川（久宝寺川）と玉串川に分水していたところ。現在は樋門から引かれた用水が長瀬川から玉串川に分水している。二俣新田は、志紀郡弓削村（西弓削村）と若江郡東弓削村の人々が権利を買い、開発した。

写真上：二俣を南から見た風景  
写真下：二俣を北から見た風景



# 研究 のーと

Investigation  
Note



## ファイル4

せじ べんき

## 「青磁の便器」

旧植田家住宅 学芸員

谷口 弘美



植田家にある青磁の小便器（左）と青磁の小判型大便器（右）

植田家には「青磁」の小便器と大便器がある。昭和初期に植田家の増築が行われた際、現在の便所がつくられた。それゆえ便器はその当時のものであると考えられる。

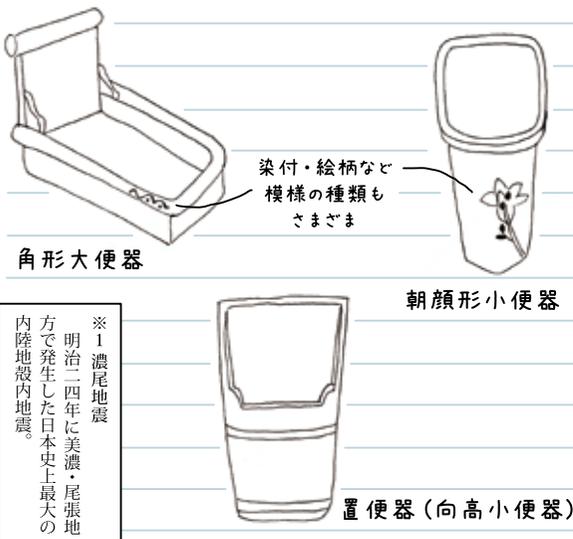
陶磁器製便器が登場するのは江戸時代の末頃（安政年間・一八五四～一八六〇）といわれており、それ以前は木製であった。まず登場したのは陶器製で、初期のものは、角形大便器・朝顔形小便器・置便器の三種類があり、いずれもそれまでの木製便器の形状を模倣したものであった。明治二四年（一八九二）の濃尾地震（※1）以後は、旅館や料亭、富裕層の家屋などの来客用便所に、瀬戸（愛知県）で作られた便器を設置するのが大流行し、東海地方を中心に陶器製便器が普及していった。

そして、この頃、磁器製便器が製造されはじめ、和式便器の基本形となる「小判型」の便器が誕生する。大正期には、人々の衛生観念が向上し、陶磁器製便器が積極的に使われるようになった。また、昭和に入ると、白色の便器に関心が高まり、白磁の便器が増えていった。

陶磁器製便器の主な産地としては、愛知県の瀬戸、常滑、滋賀県の信楽などが

挙げられる。便器には、青磁や華麗に染付が施されたものなど、様々な種類があり、各産地の特徴がみられる。中でも、植田家にある青磁の便器は、常滑でつくられた便器の特徴と類似することから、常滑産である可能性が高いと思われる。

このような陶磁器製便器が残っていることは珍しく、植田家のような旧家や旧邸、博物館などでわずかに現存するのみである。現在は白色の便器が主流だが、明治から大正頃にかけて多彩な陶磁器製便器があったということがうかがえる。





# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.16



小松菜？ほうれん草？



ウスイエンドウ成長中



様々な形をした人参たち



## 金時人参の収穫…



### 【にんじん収穫…のはずが?！】

寒さもピークの二月、そろそろ金時人参の収穫の時期がやって来た。通常、畑のイベントは朝一〇時から行なっている。なので当日は一〇分ほど前になると、子どもたちの自転車を停める音が次々と聞こえてくるのだが…。う〜ん、今日は全く静かだ。

前回の田辺大根の収穫から、かなり日にちが空いてしまったのと、この寒さ。「食べる(試食)」が得意な子どもたちだが、同時に「忘れる」も得意だ。結局だれも来ず、スタッフ三名だけの寒〜い人参掘りとなった。

そして残念なことに、最後の一本を収穫し終えた頃、子供の姿がポツポツと。その後必然的に「人参洗い大会」となった。

さて人参はというと、立派に太ったものから親指ほどの大きさのものまで形は様々だったが、いつもお世話になっている近所の方にもおすそわけができ、喜んでいただけました。

何もなくなつた畑は、次の夏野菜の植え付けまで休ませておこうと思っていたが、小さな人参洗いスタッフからの要望で、この時期に植えることのできるホウレン草と小松菜、二十日大根を育てることに。さっそく次の日、種をまいた。

学年が上がった子どもたちは、それぞれ習

い事などで忙しくなり、参加が難しくなってきた。そこで今回、新しい畑メンバーを募集し、順調に新しい顔ぶれがそろいつつある。少し暖かくなる四月の中頃には、このニューフェイスたちとホウレン草などの収穫や夏野菜の植え付けができることだろう。そして、いま順調に成長しているウスイエンドウも、旧植田家住宅のカマドで、おいしい豆ごはんとなって子どもたちの口に入る予定だ。

### 【葉っぱ、デカっ!】

黄色と白の花が満開の、種取り用の田辺大根と天王寺カブラと同じく、昨年植え付けたイチゴもたくさんの花をつけている。今年は、花も大きく、葉っぱもかなり大きい。いや、異常に大きすぎるかも…。

ともかく、今回も天敵ナメクジくんを先を越されないように注意しなければ。(五月に近隣の永畑幼稚園の園児に試食してもらおう予定)



イチゴも順調♪



…葉っぱ、デカっ!



# 植松のまち・ひと

## 第十回

JR八尾駅前アートギャラリー

かねてから紹介しているJR八尾駅前南側の万能塀では、二月の後半から植松にある永畑小学校の三年生と六年生による絵画作品計二三一点が展示された。テーマは「私の住みたいこんなまち」と「私の好きな場所」。それぞれ思い思いの場所や物、未来のまちが描かれ、アートギャラリーさながらの展示にしばしば通行人は足を止めた。

六年生一二人の作品は駅南側のプラントアの並ぶ通路に展示され、その多くには、現代の子どもたちが興味や関心を持つお店や建物などが並んだ街の風景が描かれている。他には、植松の古いまち並みやお気に入りの

### 「わたしの住みたいこんなまち、わたしの好きな場所」

入りの場所を描いた作品が見られた。

一方、三年生一〇人の作品は、駅を出てすぐ東のスロープ部に展示され、六年生とはまた違った趣を見せている。自分たちの住む八尾市の特産物や産業を描いたものが多く、郷土愛にあふれた作品がずらり。植松のまちを描いたものはあまりなく、とにかく好きな物が可愛く描かれている。

地域での大人と子どもとの距離が遠くなった現代において、こうした絵画作品を通して、子どもたちの考えや自分たちの住むまちを改めて知ることができるのは大変有意義である。次代を担う子どもたちのためにも、皆が大切に思えるまちを残していくことが必要であると感じた。

# マンジークン

安富士 暁

1. 商品のイメージ  
キャラクターになる

人気者のステータス

マンジークンのお通りだー！

2. にせものが登場する

マンジークン音頭...  
ポケモノ音頭...  
ドラ○もん音頭...

3. 音頭になる

とりあえず作詞から始めよう...  
マンジークン音頭で...  
よーよの...よーよ

The comic strip consists of four panels. Panel 1 shows a character with rabbit ears and a 'Manji-kun' product bag. Panel 2 shows the character holding a sign and a briefcase. Panel 3 shows the character at a drumming performance. Panel 4 shows the character writing lyrics in a notebook.



小学生 231人の

作品がずらり！



## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (十)

文・伊東健

二〇一二(平成二十四)年十月三十日に逝去された作家・藤本義一さんは、今東光と浅からぬ縁がありました。

一九六四(昭和三十九)年八月に公開された映画「悪名」シリーズ九作目の「悪名太鼓」(森一生監督)では、藤本さんは脚本を手がけられています。

また、『東光ばさら対談』(一九七四(昭和四十九)年三月二十八日講談社発行)では、二人の対談を確認することができます。この対談の席上で二人の出会いの場面が以下のように回想されています。

**藤本** ぼくが一番はじめ和尙に会ったのは、学生時代に天台院へ行っただけですよ。  
**今** そうでしたか。

**藤本** ぼくは河内木綿をやってきましたから、帰りに寄ったんですよ。五人ぐらいで、

そしたら、砂川問題を一時半ぐらい聞かされたかな。あれは昭和三十一年の暮れでしょう。

(中略)

**藤本** ぼくがはじめて天台院へ行ったとき、先生は原稿を書いてらして、下の向こうで会っていると朝吉親分が来たですな。

**今** そうでしたか、へえ。

**藤本** その後、ぼくは卒業してから、久松静児監督の「みみずく説法」とか、ああいうのにつきましたね。シナリオやりましたから「悪名」も二本ぐらいやってますよ。

(後略)

大阪府立大学在学中に天台院を訪れたという藤本さんは、前年に「中外日報」誌が涙骨賞として募集した放送劇の脚本に応募し、『風光る径』という作品で佳作入選を果たしており、審査員であった東光が短評を書くという奇縁も生じていました。

対談で東光は、新しい世代の作家を評して次のような言葉を残しています。



イラスト／安富士

**今** だけど、おれはだいたい東京っ子で、あそこへはいつて、河内の連中ばかりでなく、関西の物書きを見て、つくづく感心したことがあるんだ。司馬遼太郎、黒岩重吾、藤本義一って連中の根性は、やっぱり近松門左衛門とか西鶴に通ずるもんだね。江戸のチキショウが何をいうてようと、へっちゃらで書きまくるだろう。忙しい仕事を持ちたり、何だかんだしながら、ちつとも衰えずにやってるだろう。これはやっぱり、西鶴が住吉神社で一晩に一万句吐き出したっていうあのエネルギーだね。関西のエネルギーだよ。

時代を駆け抜け、多彩な足跡を残された藤本義一さんに、心よりのご冥福をお祈り申しあげます。

[2013年5月~7月]

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

### 展示

◎5月3日(金)~6月30日(日)  
通常展「大和川付け替え関連展示」

◎7月4日(木)~9月1日(日)  
開館5周年記念展(前期)  
「植田家を語るものたち~工芸品~」

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

◎5月  
11日(土)・12日(日) 河内木綿まつり(八尾市立歴史民俗資料館主催)  
15日(水) ボランティアガイド養成講座①  
19日(日) ぶらりまちあるき~平野川編~

◎6月  
15日(土) 講座「大坂画壇の現状と展望」(講師:中谷伸生氏)  
19日(水) ボランティアガイド養成講座②  
30日(日) 八尾再発見~文学に見る八尾~(講師:浅見緑氏)

◎7月  
6日(土) 連続講座1-1「ちょっと歴史のまちあるき」  
10日(水) ボランティアガイド養成講座③  
22日(月) こどもガイド体験講座

(詳しくはお問い合わせください)

## 休館日カレンダー

■ = 休館日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 June

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7 July

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●開館時間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)  
高校・大学生100円(団体50円)  
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者  
および介助者は無料

●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車。南出口より徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前  
JR八尾駅前バス停下車。南東へ徒歩約6分



## これからの社会に必要な「しくみ」と 「人の居場所」をつくる活動を行っています。

私たちは「地域の豊かさなくして自社の豊かさはいり得ない」という信念のもと、「新しいキャリア観のつくる」「中小企業のソーシャル化」「生物多様性」「地域を元気にする」をキーワードに、これからの社会に必要な「しくみ」と「人の居場所」をつくる活動を行っています。本業を通じた社会貢献をお考えの企業さま、持続可能な社会をつくるために何かしたいとお考えの行政・地域団体など各種事業体のみならず、お気軽にお問い合わせください。



事例：no.001  
**八尾市の  
産業観光推進**

大阪モノづくり観光推進協会が運営するプログラムの「モノづくりと歴史・文化・風土などの地域資源をマッチングさせ、モノづくりの心を若者に伝える、交流を生み出し地域活性化を図る」という目的に共感し賛同。八尾地域で協働頂ける企業様へのお声かけをし、その活動の拡大に協力しています。



事例：no.002  
**環境意識の啓蒙  
ハッピーアースデイ**

「環境のことを考え行動する日」として各地で開催されるアースデイ。近畿大学学生を主体に運営を行う「ハッピーアースデイ大阪」に社会人実行委員として参加。開催地（久宝寺緑地）のある八尾市の企業誘致、広報物の企画・制作なども担当しています。



事例：no.003  
**地元飲食店活性化  
「八尾バル」**

八尾のおいしい農産物とよりすぐりのお店を結んだ「地産地食」飲み歩き食べ歩きイベントに社会人実行委員として参加。参加店舗との調整をはじめ、各種の広報活動・当日の運営などにいたるまで、幅広く担当しています。

リレ  
コラム

### 私たちと、八尾の街。



#### 八尾を中心に様々な企業と連携する取組みを 楽しみながらつくっていききたいですね。

市から委託管理を任せられる、NPO 法人 HICALI は、この「安中新田会所跡 旧植田家住宅」という施設をこうとらえていると、学芸員の安藤さんは答えてくれた。「いわゆる、エコミュージアムなんです。なので、地域にとけ込んだ運営や取り組みも行っていきます。永畑小学校の校区内にあるので、一緒ににわの伝統野菜を育てたり、出前授業に行ったり。最近は放課後に遊びに訪れたり、ということも増えてきました。実は、現存する会所は府内でここを含め3ヶ所しかありません。だからこそこの地域を含め、建物や歴史、文化も、後世に伝えていきたいと思うんです。こうした活動を通して、子どもたちが大きくなって、ここで過ごしたことをふと思い出してくれたらいいな、と思います。」土地ならではの文化や歴史を、建物と共に広め、残していく。旧植田家住宅という建物を中心にひろがる取組みを、安藤さんたちは今日もつくっていている。

取材協力：安中新田会所跡 旧植田家住宅 NPO 法人 HICALI 学芸員 安藤 亮さん NPO 法人 HICALI : www.hicali.jp



## いっしょにつくる、八尾想いプロジェクト。 私たちとあなたも始めてみませんか？

このプロジェクトは、私どもの本業を通した「社会への還元」を行う活動として実施します。このプロジェクトに共感いただき、ご発注いただいたお仕事で得る、売上げ金の一部を「八尾を想うプロジェクト」へ支援金として還元する取組みです。

『地域を元気にする活動に参加したい』

もしその様なことをお考えであれば、私たちとまずは始めてみませんか？

PROJECT  
001

ハッピーアースデイ大阪  
2013 秋(10月予定)での  
リユース食器レンタル費へ  
「八尾想いプロジェクト」  
で発生した売上金から  
3%を支援します



問合せ

CSR室(直通) **06-4801-8200**

平日 11:00-17:00  
(土日祝を除く)